兵庫津遺跡第62次調査

2015.1.31
第3回現地説明会資料
神戸市教育委員会

はじめに

兵庫津は、古くは「大輪田泊」と呼ばれ、平安時代には平清盛によって日宋貿易の拠点とされたことで有名です。また中世には、瀬戸内海の海運、さらに日明貿易の主要港として重要な役割を果たしました。

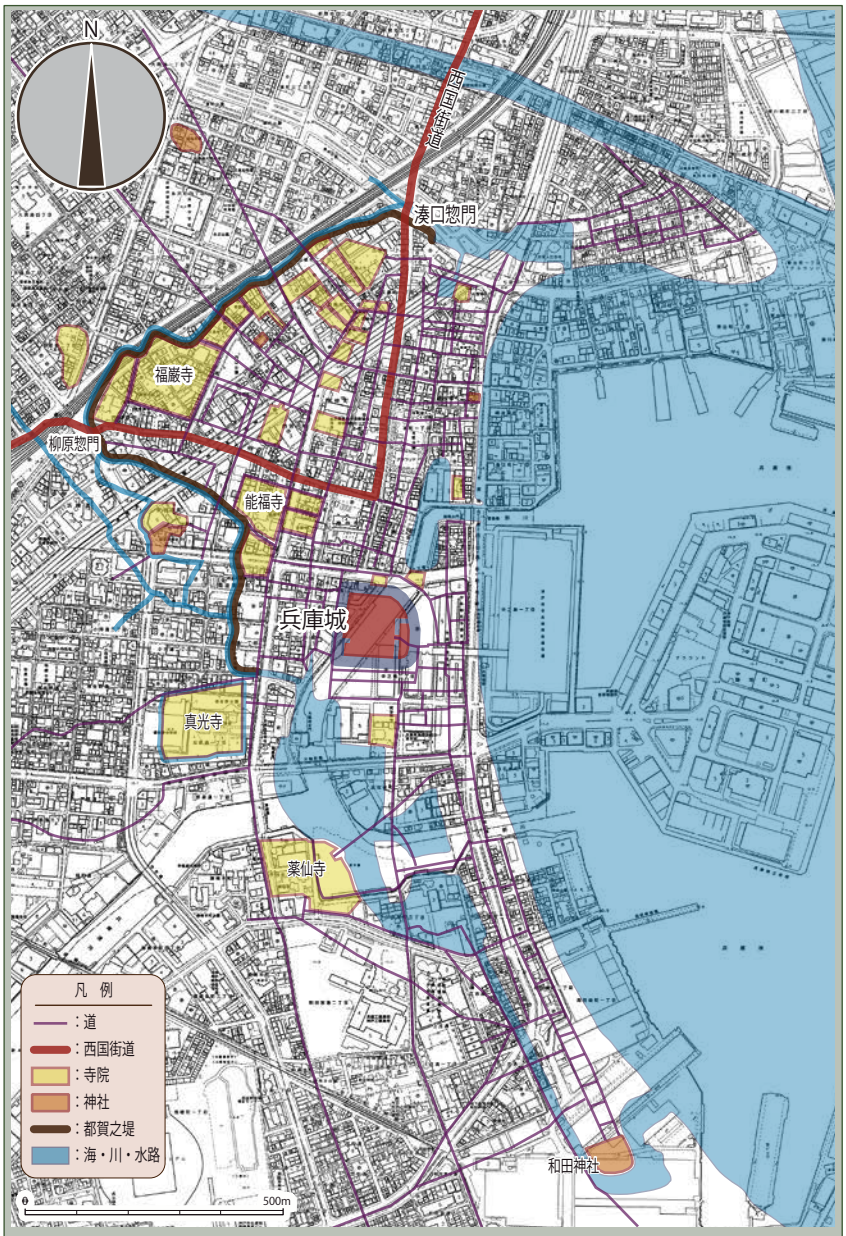
戦国時代末の1580年、織田信長の家臣であった池田恒興によって兵庫城は築かれ、兵庫津の港と町を統治しました。町は、伏見地震（1596年）で甚大な被害を受けたとされています。江戸時代初期の1617年に尼崎藩領になり、「兵庫陣屋」として奉行が兵庫津の支配を行いました。その後、港町や西国街道の宿場町として順調に発展し、江戸時代中ごろには、人口２万人の都市に成長しました。

これまでの調査で、江戸時代のリアルな町屋と街路等が発見され、何度も火災に遭いながらも再建し、町屋を営み続けていた様子が明らかになりました。その一軒一軒の町屋の区画は、江戸時代を通じて踏襲されており、火災によって焼かれた町屋の跡からは、炭や焼け土に混じって多くの陶磁器や銭などが出土しています。また、兵庫城が築城された頃から、大手道周辺の中心地にも町屋が存在する城下町の様子が確認されました。

今回は、その後の調査の進展によって明らかになった兵庫城について紹介します。

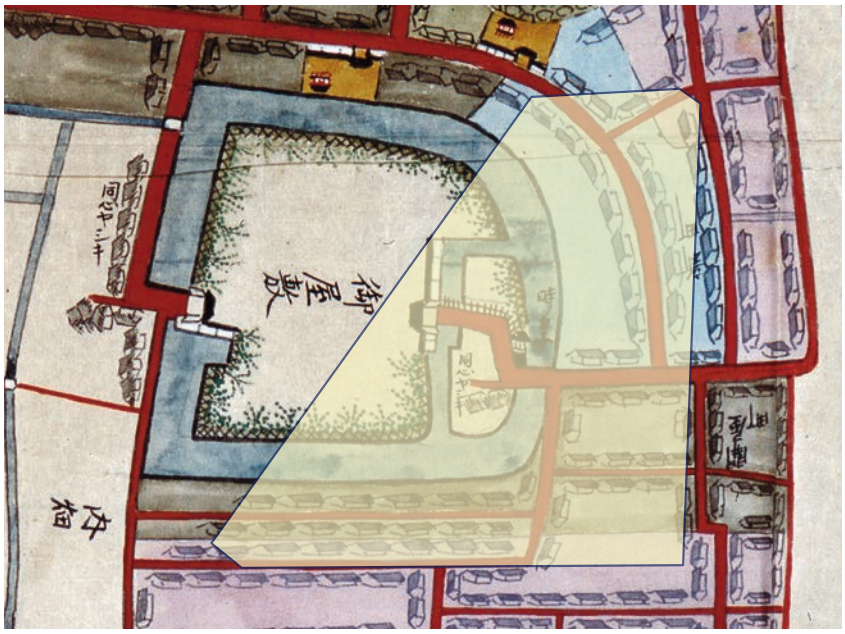
兵庫津遺跡・兵庫城跡　発掘調査地点位置図

空から見た発掘調査地とその周辺



現在の地図と元禄絵図の合成図

元禄９（1696）年に兵庫津奉行が尼崎藩に提出した「摂州八部郡福原庄兵庫津絵図」を、現存する寺院などを基準に、現在の地図と重ね合わせました。



発掘調査範囲と『摂州八部郡福原庄兵庫津絵図』（部分、個人蔵、神戸市立博物館寄託）（不許転載）

発掘調査成果

平成24年の発掘調査で、兵庫城の石垣の一部が見つかっていました。今回見つかった堀と石垣は、池田恒興が築城した時期にさかのぼると考えられる外堀と内堀です。特に兵庫城の南辺にあたる外堀は残りが良く、最大幅約18.5m、長さ約109mを確認しました。また、東辺の外堀は長さ約96m、そして内堀は長さ約69mが見つかり、さらに北西方向に伸びていることがわかりました。

石垣の石は、その大半が自然石の平らな面を表面に積み上げています。また、五輪塔などの一部が石材として利用されています。その高さは最高部で約1.3mになりますが、本来の高さは、後に削平されているため不明です。

兵庫城 年表

年号	西暦	出　来　事
天正８	1580	池田恒興が築城。荒木村重の花熊城を解体し、その材料を使用したとの記録がある（『花熊落城記』1732年）。
天正11	1583	池田恒興、美濃へ転封。 兵庫と尼崎が三好（豊臣）秀次に与えられる。
天正13	1585	羽柴秀吉の直轄領となる。 片桐且元が代官となり、「片桐陣屋」と呼ばれる。
慶長元	1596	伏見地震。兵庫津も被害を受ける。
元和３	1617	尼崎藩領となる。 「兵庫陣屋」がおかれ、奉行が駐在する。
元禄９	1696	『摂州八部郡福原庄兵庫津絵図』が描かれる。 「兵庫陣屋」は、「御屋敷」と表現される。
明和６	1769	幕府直轄領となり、「勤番所」が置かれる。 上知（あげち）以降、堀が埋められ町屋となる。
文久２	1862	『兵庫津之圖』が描かれる。 「御番所」の周りも町屋となっている。
明治元	1868	兵庫県庁が置かれる。４ヶ月で移転する。
明治７	1874	新川運河開削により、中心部の大半が削られる。

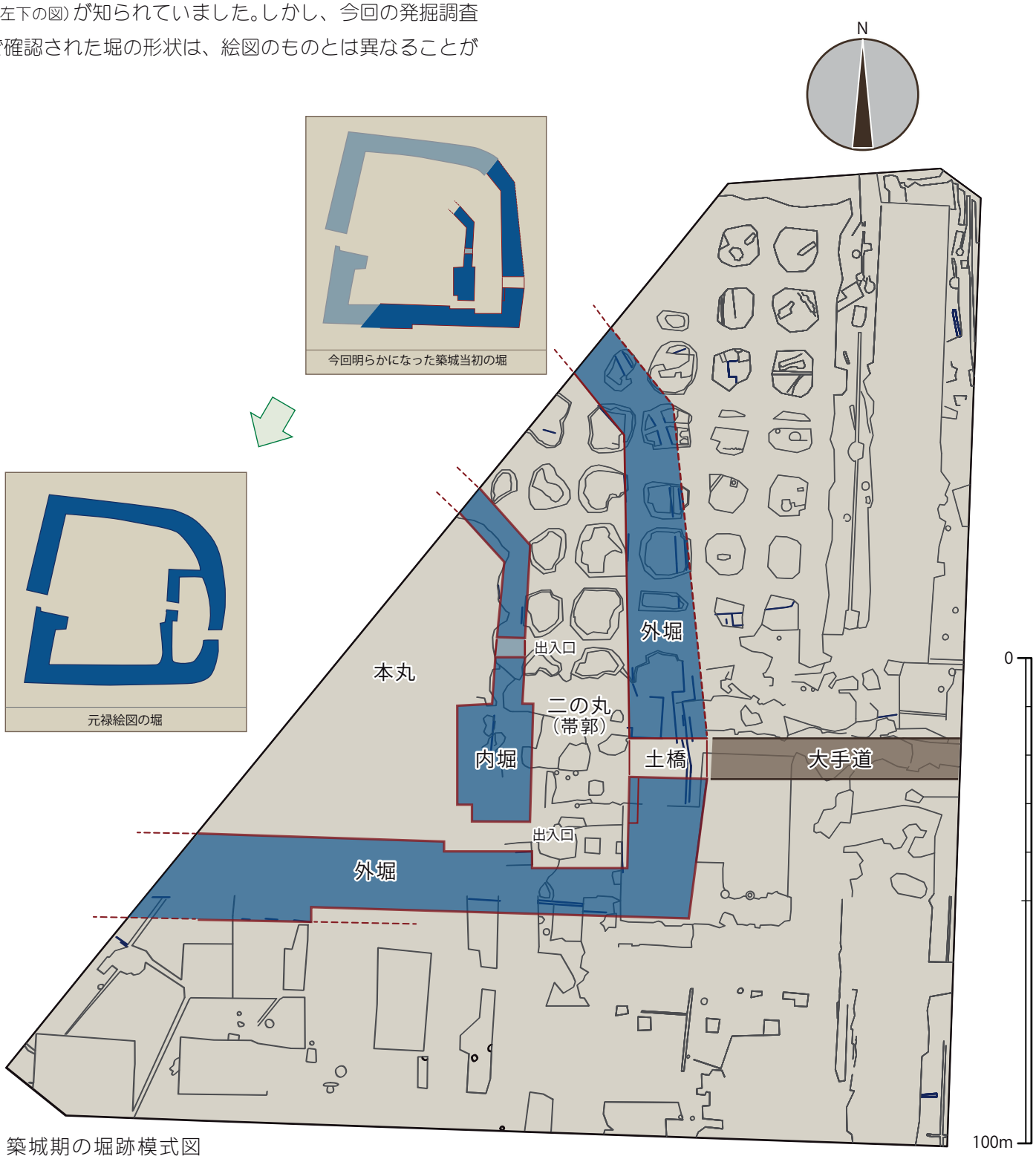
外堀と内堀の間には二の丸(帯郭)が広がり、内堀の内側に本丸が存在する城郭であったことが明らかになりました。そして、内堀には２ヶ所の出入り口が確認されました。北側の出入り口は幅約 4.2m、南側の出入口は幅約 5.8m です。このように、本丸への出入り口が２ヶ所設けられているのは、大和郡山城によく似ています。

外堀から二の丸へは、幅約 7m、長さは約 16m の土橋を渡り、城内に入っていました。

これまで、兵庫城の姿は元禄９（1696）年に作成された『摂州八部郡福原庄兵庫津絵図』の中に描かれたもの（前頁左下の図）が知られていました。しかし、今回の発掘調査で確認された堀の形状は、絵図のものとは異なることが判明し、兵庫城築城時期の堀の形状が初めて明らかになりました。安土城（信長の築城）から大坂城（秀吉の築城）への過渡的な城郭の様相を示しています。

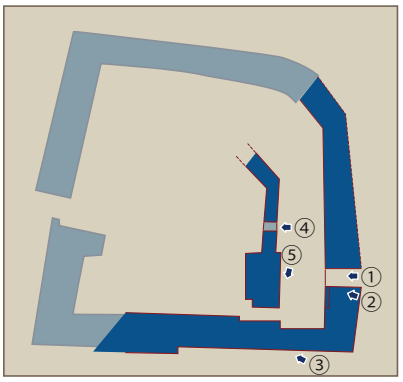
江戸時代中ごろには、それまであった堀の一部を埋め戻したり、新たに堀を開削するという土木工事が行われ、堀の形状を変えていたことが分かりました。

兵庫城の堀は1769 年の上地令により、そのほとんどが埋め戻され、「悪水抜溝」として区画を留めますが、明治時代には姿を消したと思われます。堀を埋め戻す際の土止め板には船材などの転用材が多く使われていました。



築城期の堀跡模式図

垂直空中写真



写真①～⑤の撮影位置

① 兵庫城大手道の土橋

②大手道の土橋附近

③ 南側の外堀

④内堀に架けられた土橋

⑤ 内堀

今回の発掘調査および現地説明会の開催にあたっては、イオンモール株式会社のご協力を得ました。